

PRESS RELEASE

空中に浮かぶ仮面。触れる、動かす、理解するAERIAL COMPUTING。

NHK鹿児島放送局、鹿児島市立天文館図書館主催のKAGOSHIMA MASK COLLECTIONに技術協力。

インターマン株式会社（本社：鹿児島県鹿児島市、代表取締役：上田平 重樹、以下「インターマン」）は、2026年7月18日（土）から7月31日（金）まで鹿児島市立天文館図書館で開催されている「KAGOSHIMA MASK COLLECTION ー鹿児島県の仮面・装束展ー」に、空中映像表示装置「AERIAL COMPUTER（エアリアルコンピューター）」を提供しています。

本展示では、鹿児島県内の伝統行事で使用される貴重な仮面や装束の3Dデータを、AERIAL COMPUTERによる空中映像として展示しています。来場者は、ディスプレイやスクリーンの枠にとらわれることなく、仮面や装束が空間に浮かび上がるような立体映像を通して、その形状や色彩、細部の造形をさまざまな角度から鑑賞できます。

鹿児島各地に伝わる「祈りのかたち」を新たな視点で紹介

大和文化圏と琉球文化圏が交差する鹿児島には、各地域の歴史や信仰、自然との関わりを背景とした、多様な伝統行事が受け継がれています。

「KAGOSHIMA MASK COLLECTION ー鹿児島県の仮面・装束展ー」では、本土から離島まで、鹿児島県内11の行事に伝わる仮面・装束12体が集結し、普段は地域の祭りや伝統行事など、限られた機会で見ることのできない仮面・装束の実物展示に加え、番組制作時に作成された3DCG映像が紹介されています。

インターマンは、この3DCG映像をより印象的に鑑賞できる展示手法として、AERIAL COMPUTERを提供しました。空中に浮かび上がる立体映像によって、実物展示とは異なる角度から仮面・装束の造形を観察でき、鹿児島の伝統文化を身近に感じられる展示となっています。

空中映像技術と3Dデータで文化資産の新たな見せ方を提案

AERIAL COMPUTERは、映像を空中に浮かび上がっているように表示する、インターマン独自の空中映像表示装置です。背景を透過した3DCG映像などを表示することで、対象物が装置の前方に存在しているかのような立体感のある表現を実現し、文化財、歴史資料、工芸品、生物、建築物など、実物の移動や接触が難しい対象についても、3Dデータを活用して、その特徴や魅力を分かりやすく伝えることができます。今回の展示では、鹿児島各地に伝わる仮面・装束の3Dデータを空中映像として表示することで、伝統文化とデジタル技術を組み合わせた新しい鑑賞体験を提供しています。

AERIAL COMPUTING®について

AERIAL COMPUTING（空中コンピューティング）は、インターマン株式会社が提唱・商標登録している、空間における体験を通じて人間の思考を構造化する概念です。ジェスチャーにより空中に浮かぶ情報と直接インタラクションを行う体験を提供します。またAERIAL COMPUTER®（空中コンピューター）は、その概念の実装の一つです。



KAGOSHIMA MASK COLLECTION ー鹿児島県の仮面・装束展ー

開催期間：2026年7月18日（土）～7月31日（金）

開催時間：午前10時～午後8時

会場：鹿児島市立天文館図書館 4階 交流スペース／ギャラリースペース
鹿児島県鹿児島市千日町1番1号 センテラス天文館

入場料：無料



空中コンピューター体験

インターマン株式会社

本社：鹿児島市武1-2-10 JR鹿児島中央ビル 5階

東京ショールーム：東京都港区芝大門1-10-18 PMO 芝大門3階

（体験希望は、ホームページの「Contact」からお問い合わせください）



本件お問い合わせ先

インターマン株式会社 広報（森本・島津）

〒890-0045 鹿児島市武1-2-10 JR鹿児島中央ビル5階 099-206-6878